

熱氣ヲ解シ、蘊毒ヲ疎滌シテ、部位ヲ減ズルノ藥方アリ、此萬全ノ法則也。然レドモ若此治療ニ洩レテ危難ニ懸ルノ症、九死一生、命期旦夕ニ迫ル、藥力ノ及所ニ非ズ、此浴法ニ非ズンバ、冥路再ビ生地ニ還ル事能ズ、此蘭語ノ譯ノ儘記シ置者也。

水斗一
米糠二升
酒二合
鹽三
赤小豆三粒
鼠屎三

右六味合シテ熱熟湯トシテ十七八歳位ノ男女此分量ヲ用ユ、一二歳或四五歳ノ兒ヘ水四升或七八升、米糠酒鹽モ又隨テ減ズ可キ也。

〔燕石雜志五上〕疱瘡洗湯 小兒いまだ疱瘡せざるものに浴すべき藥湯 桃枝一本フトサラ
一尺五寸去皮 陳皮四
五寸桑枝一本フトサ同上 緑豆三
枳殼四
黑豆三
牛蒡子四
紅花四
右水三升入一升に煎じつめて小兒に浴すべし、究めて痘瘡かろし、痘の流行とき度々浴すれば必効あり。

○按ズルニ、是レ酒湯ニアラザレド、其事酒湯ト同一理ニ出ヅルモノナレバ、此ニ附記ス。
〔松屋筆記七十九〕疱瘡のさゝ湯

吾妻鏡卅五の卷十才に、寛元元年十月一日、若君御疱瘡略中と見ゆ、赤斑瘡、三の巻にさゝ湯の事をいへり、そこに補べし。

〔吾妻鏡三十五〕仁治四年元年九月十九日壬戌、若君頼嗣原煩疱瘡略中 十月一日甲戌、若君

御平復之間、今日午刻、御沐浴之儀、醫師賴行、廣長等朝臣賜祿、

○按ズルニ、此沐浴ハ發病ヨリ十二三日目ニ當レバ、蓋シ疱瘡ノ酒湯ニ近シ、又建長八年九月一日ニ、將軍宗尊赤斑瘡ニ罹リ、同月十九日沐浴、同月十五日北條時賴同病ニ罹リ、二十九日ニ沐浴ノ事、共ニ吾妻鏡ニ見ユ、一ハ十九日目ニシテ、一ハ十五日目ニ當レリ、是等ハ何レモ酒湯ノ類ナラン、